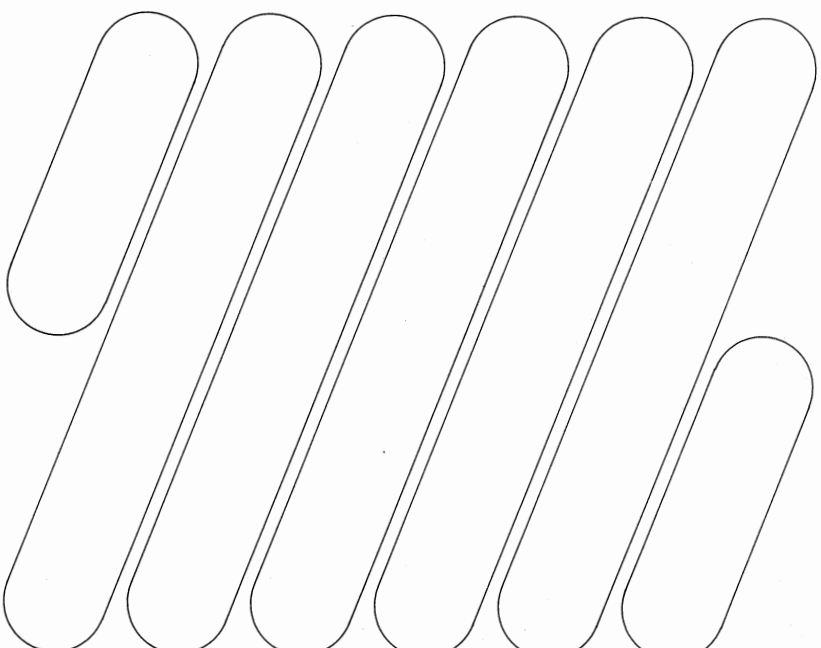
HONDA

カブ（リきまる） HP250

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書
をお読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

●一般公道では使用できません。
●夜間作業はできません。
（作業灯の装備がされていません）

取扱説明書について
この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはホンダ汎用営業所にご注文ください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた運搬機を安全に正しく操作をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上、特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の指示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

・保証書はよくお読みいただき、裏面の商品受領書サイン欄にご署名の上、大切に保管してください。

目　　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4
安全ラベル …… 8
各部の名称と取扱いをおぼえましょう …… 10
エンジン スイッチ …… 12
燃料コック レバー …… 12
エンジン回転調整レバー …… 13
始動グリップ …… 13
走行クラッチ レバー …… 14
変速レバー …… 14
サイド クラッチ レバー(操向クラッチ レバー) …… 15
ダンプ ロック解除レバー …… 15
作業前に点検しましょう …… 16
燃料の点検 …… 16
クローラの点検 …… 18
荷台延長パイプのロック ボルトの点検 …… 18
エンジン オイルの点検 …… 19
エア クリーナ(空気清浄器)の点検 …… 20
エンジンのかけかた …… 21
エンジンの止めかた …… 27
運転操作のしかた …… 29
運転 …… 29
旋回のしかた …… 31
荷台の使いかた …… 32
積載のしかた …… 36
傾斜地での使いかた …… 37
ダンプ ロック解除レバーの使い方 …… 38
定期手入れを行いましょう …… 39
定期点検整備項目 …… 39
やさしい点検・整備 …… 40
エンジン オイルの交換 …… 40
点火プラグの清掃・調整 …… 42
エア クリーナの清掃・交換 …… 43
クローラの点検・調整 …… 44

走行クラッチ ケーブルの調整 ……47
ブレーキ ケーブルの調整 ……48
ブレーキ シューの点検 ……49
サイド クラッチ ケーブルの調整……50
ダンプ ロック ケーブルの調整……51
変速機オイルの点検……52
クラッチ オイルの点検 ……52
各部の給油について……53
トラック(車)への積み降ろしのしかた……54
長期間使用しないときの手入れ……56
バッテリの手入れ(CJISタイプのみ) ……58
故障のときは……60
主要諸元……61

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法をご理解のうえで操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 過労や病気、薬物の影響で運転操作に支障があるときは本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 頭髪、衣服、手ぬぐいなどが巻き込まれないように、作業に適した服装をしてください。また滑り止めのついた作業に適した靴をはいてください。思わぬ事故を起こすことがあります。
- 日常点検・整備を必ず行い、本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態で操作すると、大けがをすることがあります。点検作業は、通行の妨害にならない平坦で安全な場所で行ってください。防護装置が正しく取付けられていることを確認してください。
  点検・整備のために取外された部品は正しく取付けられ、確実に締付けられていることを確認してください。
- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。
  有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
  燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、換気のよい場所で補給してください。また燃料を補給するときや燃料の保管場所では、たばこを吸ったり炎や火花を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して所定のレベルまで補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 本機の操作は2本のハンドル バーをしっかり握り、本機の後方に立って操作をしてください。荷台の上に乗ったままの操作は絶対にしないでください。転落などにより、けがをするおそれがあります。

警告

- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。また本機の改造は絶対にしないでください。適正な機能を発揮しなくなり、思わぬ事故を招くおそれがあります。
- 荷台に人を乗せて乗り物代わりの使用は絶対にしないでください。
- 適切な説明がない状態で他の人に本機の操作をさせないでください。
  特に子供には絶対にさわらせないでください。
- 他の人に本機を貸し出す場合は、取扱い方法をよく説明し取扱説明書よく読むように指導してください。

●荷物の積載

- 過積載は絶対にしないでください。積載の量、方法を必ず守って使用してください。「積載のしかた」(36頁参照)
- 荷台に荷物を積載する場合は荷崩れしないように、しっかりとロープで固定してください。
- 荷台からはみ出すような荷物は積載しないでください。荷物が落下したり、狭い道で荷物が接触したりして、運転操作に支障をきたします。
- 高く荷物を積載しないでください。前方の視界をさまたげるばかりでなく、重心が高くなり転倒するおそれがあります。

●作業中

- 作業中は周囲の安全に十分注意してください。
- 本機と接触してけがをすることがないように、作業範囲内に人やペットを近寄らせないでください。特に子供には注意が必要です。人やペットが近づいて来たときは、エンジンを止めて作業を中断してください。事故を起こすおそれがあります。
- 運転中は、クローラ部に手や足を近づけないでください。またフェンダやシフト パターン プレートに足をかけないでください。

警告

- 後進で使用するときは滑ったり、つまずいたりする場合がありますので足元、荷崩れ、後方視界などに十分注意してください。
- 視界が悪いときは障害物にぶつかる場合がありますので本機を使用しないでください。
- 作業場への出入り、溝や畦の横断、砂地での使用、軟弱地の通過、傾斜地での発進、停止、旋回などは転倒するおそれがありますので注意して走行してください。
- 傾斜地で駐車しないでください。駐車をするときは平坦な場所でエンジンを止めて、変速レバーを〝中立〟にし、走行クラッチ レバーを〝停車〟にしてください。
- 急傾斜地での旋回および変速は、転落するおそれがありますので避けてください。
- 軟弱な道の走行は路肩が崩れ、転倒、転落するおそれがありますので避けてください。
- 本機の転倒を避けるため、15度以上の上りの傾斜地や15度以上の下りの傾斜地では使用しないでください。
- 作業中に異常を感じたら、平坦な場所でエンジンを停止させてください。誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチを〝停止〟にして点火プラグ キャップをプラグから取外し、変速レバーを〝中立〟にして、走行クラッチ レバーを〝停車〟にしてから点検してください。
- 運転中はエンジンやマフラ(消音器)などは非常に熱くなっています。エンジン停止後もしばらくの間は熱いままになっています。やけどのおそれがありますので、エンジンやマフラなどに触れないように注意してください。
- クローラの上面が水に浸かるような深い水田などでは使用しないでください。

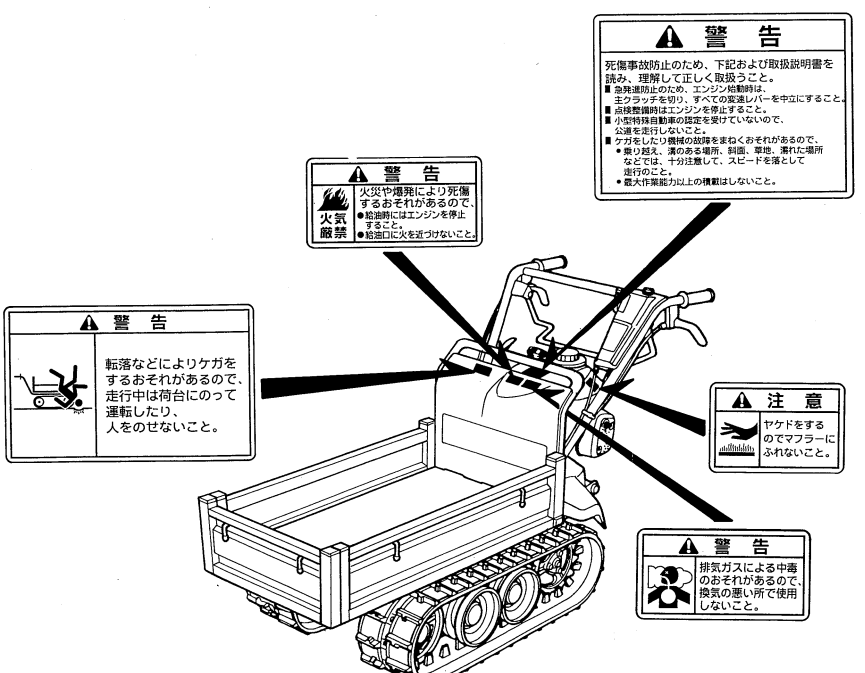
警告

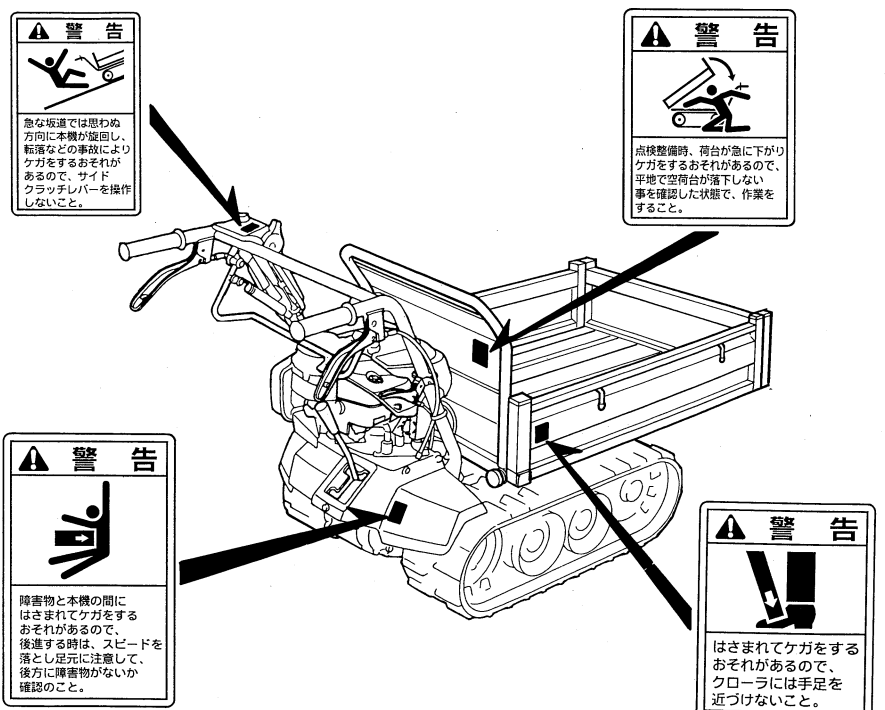
●作業が終わったら

- 次の作業に備えて本機の点検・整備を実施してください。
- やけどの原因とならないように、エンジンを停止させ、エンジンやマフラなどが冷えてから各部の清掃をしてください。
- 本機を室内に格納するときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してからボディ カバーなどをかけて格納してください。
- 長期保管するときは、キャブレータ(気化器)や燃料タンク内の燃料を抜取り火気のないところに保管してください。また、燃料を抜くときは、引火性があり火災や爆発のおそれがありますので、燃料用の安全な容器を使用してください。
- トラック(車)への積み降ろしをするときは、必ずアユミ板を使用し、低速で行なってください。転倒や落下した場合にけがをするおそれがあります。

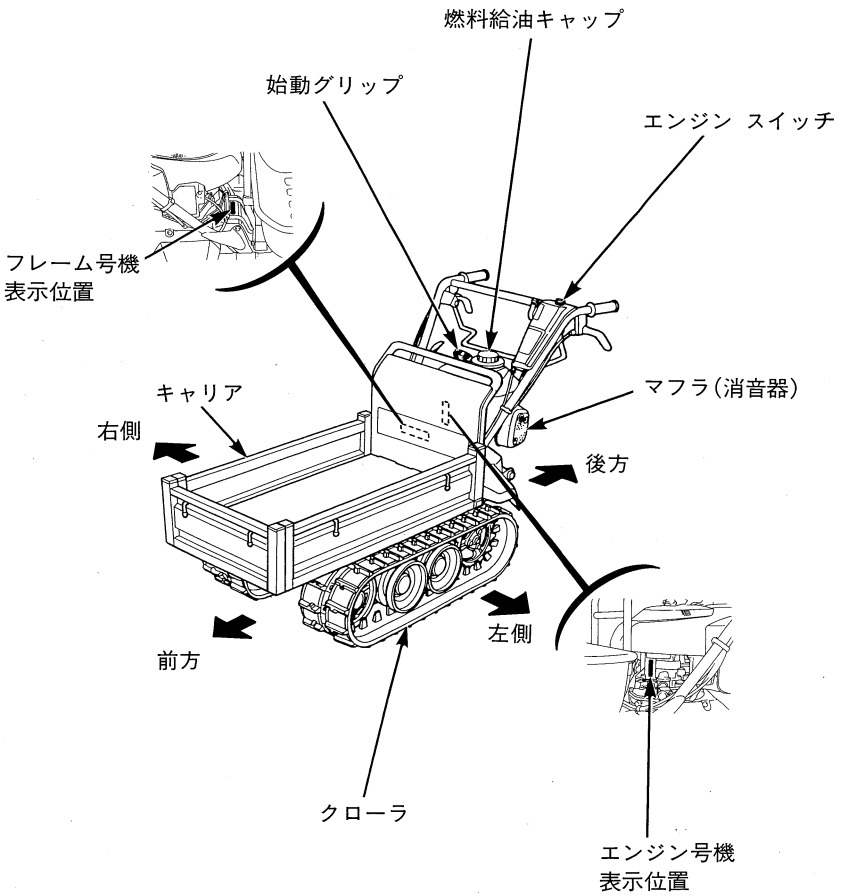
●安全ラベル

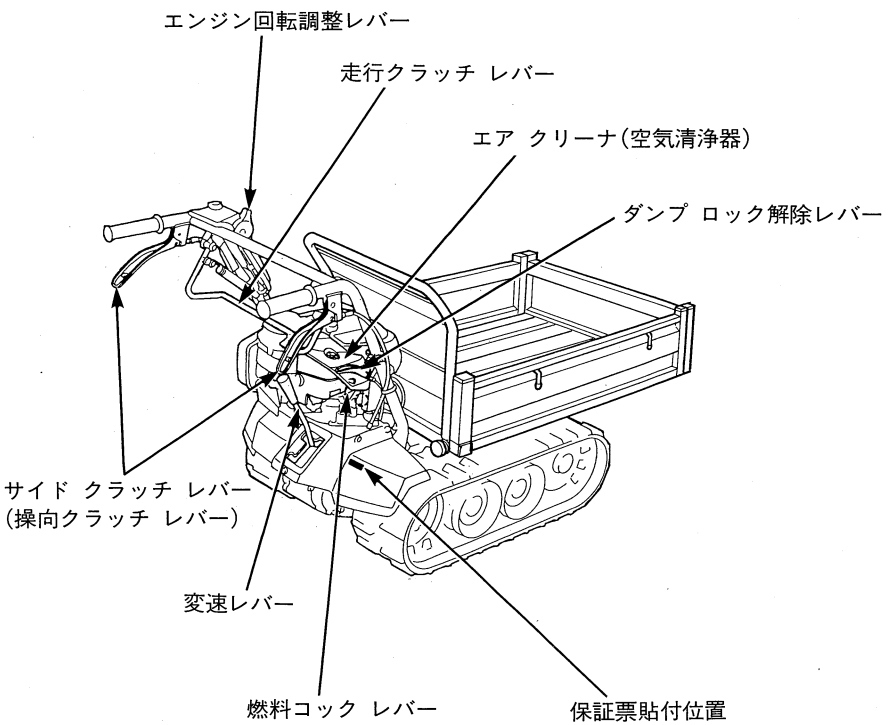
本機を安全にご使用いただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。
ラベルは、はっきりと見えるようにきれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失で読めなくなったときは、新しいラベルに張り替えてください。
また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものを貼ってください。
安全ラベルはお買いあげいただいた販売店にご注文してください。




⚠ 警 告
急な坂道では思わぬ方向に本機が旋回し、転落などの事故によりケガをするおそれがあるので、サイドクラッチレバーを操作しないこと。
⚠ 警 告
点検整備時、荷台が急に下がりケガをするおそれがあるので、平地で空荷台が落下しない事を確認した状態で、作業をすること。
⚠ 警 告
障害物と本機の間にはさまれてケガをするおそれがあるので、後進する時は、スピードを落とし足元に注意して、後方に障害物がないか確認のこと。
⚠ 警 告
はさまれてケガをするおそれがあるので、クローラには手足を近づけないこと。

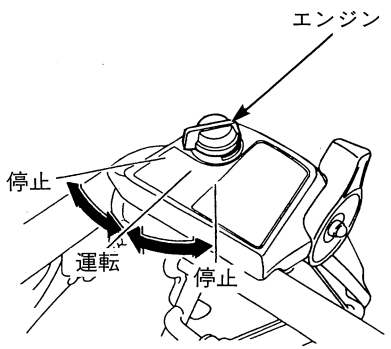
各部の名称と取扱いをおぼえましょう



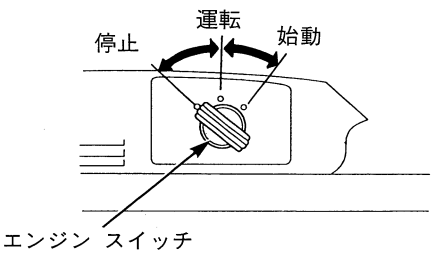

エンジン回転調整レバー
走行クラッチ レバー
エア クリーナ(空気清浄器)
ダンプ ロック解除レバー
サイド クラッチ レバー
(操向クラッチ レバー)
変速レバー
燃料コック レバー
保証票貼付位置

エンジン スイッチ

エンジンの運転、停止、始動をするときに操作します。



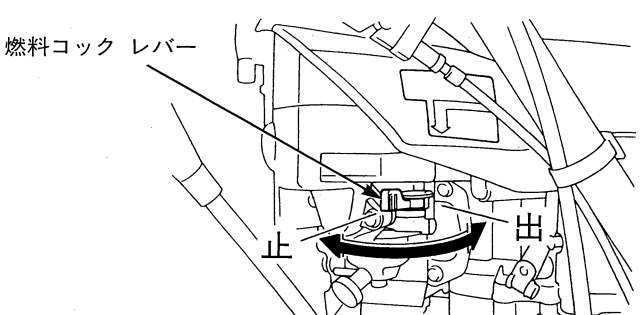
(CJ1、CJ1R、HJ1タイプ)



(CJ1Sタイプ)

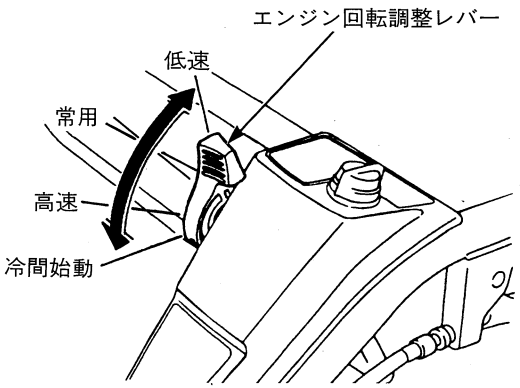
燃料コック レバー

燃料タンクからキャブレータ(気化器)までの燃料通路を開閉するときに操作します。
操作は確実に〝止〟〝出〟の位置に合わせます。



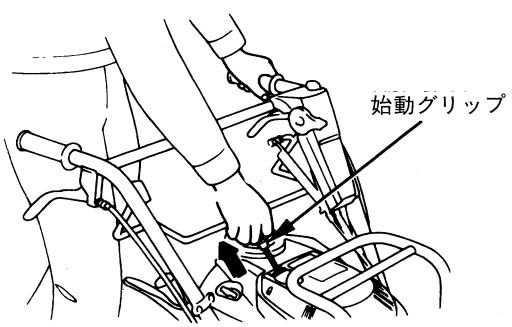
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するときに操作します。通常は〝常用〟の位置でご使用ください。



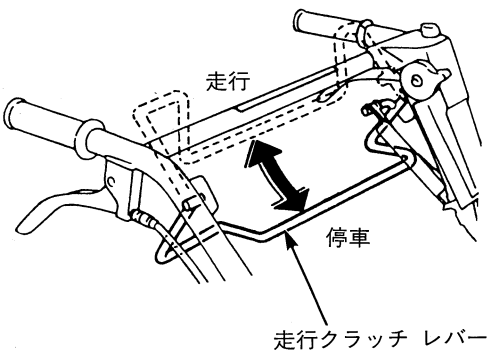
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



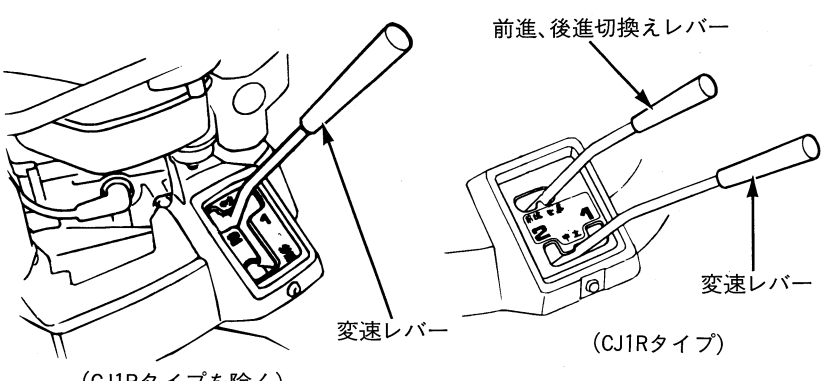
走行クラッチ レバー

走行クラッチ レバーを上げると走行し、下げるとクラッチが切れて、ブレーキが作動して止まります。



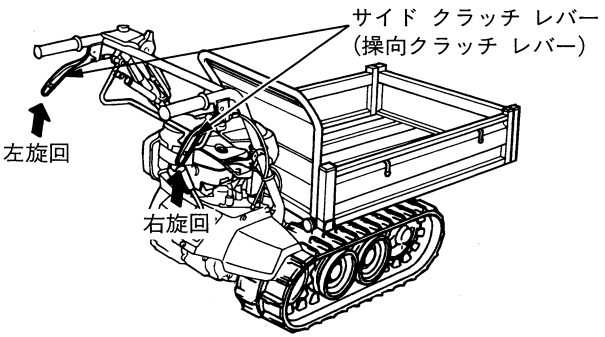
変速レバー

本機を前進、後進するために操作します。
前進２段、後進１段、後進２段さらに〝中立〟があります。



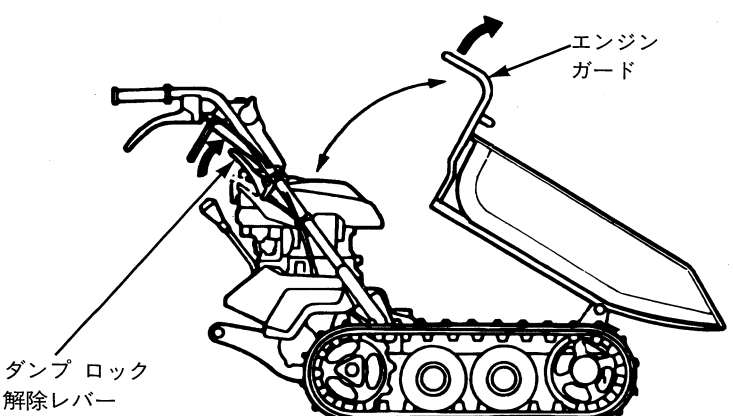
サイド クラッチ レバー(操向クラッチ レバー)

方向を変えるときに使います。レバーを握ると握った方向に曲がります。



ダンプ ロック解除レバー

荷台のロックを解除するときに操作します。
解除するとき……レバーを握りエンジン ガードを持ち上げます。
ロックするとき……エンジン ガードのみ持ってロックするまで下げます。



⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平にしエンジンを止めて行ってください。
不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと事故を引き起こすおそれがあります。

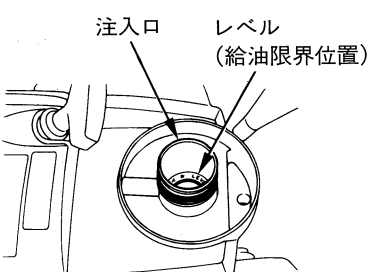
燃料の点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンの補給は
- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれた場合は布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。**
- **燃料は注入口の口元まで入れず所定のレベル以下まで補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。**

点検

注入口のレベル(給油限界位置)以下まで燃料があるか点検してください。
少ない場合は注入口のレベル(給油限界位置)以下まで補給してください。



補給

燃料給油キャップを外し、注入口のレベル(給油限界位置)以下まで補給してください。

使用燃料：自動車用ガソリン

タンク容量：0.9ℓ

補給後、キャップを確実に締付けてください。

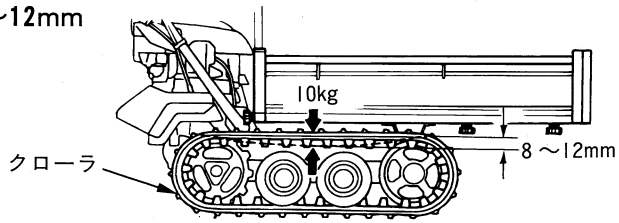
クローラの点検

クローラに損傷はないか、ゆるんでいないか点検してください。
クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

点検のしかた

クローラの中央部を強く(約10kg)押したときたるみが下記寸法になっているか点検してください。(調整方法は44頁参照)

たるみ量： 8 ～12mm

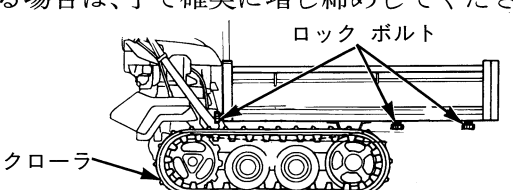


⚠警告

走行中にクローラが外れたり切れたりした場合、荷崩れや転倒などの事故につながります。
走行不能になると同時にブレーキが効かなくなり重大事故になる場合があります。

荷台延長パイプのロック ボルトの点検

荷台延長パイプのロック ボルトがゆるんでいないか点検してください。
もしゆるんでいる場合は、手で確実に増し締めしてください。



⚠注意

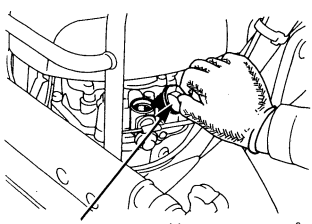
ロック ボルトの締付けがゆるいと運搬中に荷台サイド プレートや荷台フロント プレートが外れ、荷崩れやけがをするおそれがあります。

●荷崩れや転倒事故を防ぐため、日常点検を実施してください。

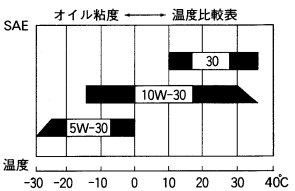
エンジン オイルの点検

点検

本機を水平な場所に止めオイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルをふき取ります。キャップを締込まずに、キャップを差込み給油口にあたった位置でキャップを抜取り、オイル量を確認してください。
油面が下限に近いときは、上限までオイルを補給してください。オイルの汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は40頁参照)

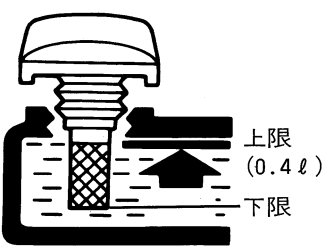


エンジン オイル給油キャップ



補給

オイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給します。



●推奨オイル：4サイクル ガソリン エンジン オイル
ホンダ純正：①ウルトラ ネオ汎用機用(SAE30)
②ウルトラ-U(2輪車用)(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

取扱いのポイント

- **低温時(気温10℃以下)ではホンダ純正ウルトラ-U(2輪車用)SAE10W-30のオイルをご使用ください。**
- **寒冷時(気温－15℃以下)ではAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE5W-30オイルをご使用ください。**
- **オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**

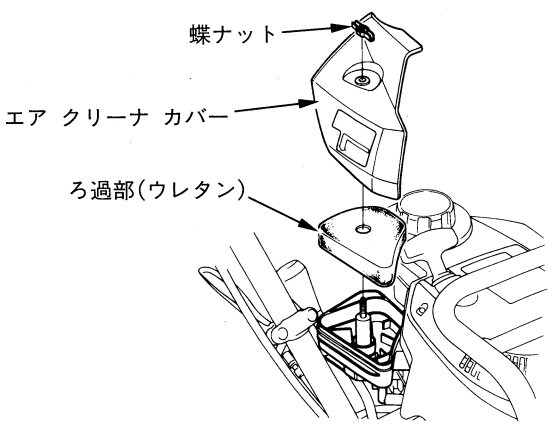
エア クリーナ(空気清浄器)の点検

点検

1.蝶ナットを外し、エア クリーナ カバーを外します。
2.ろ過部(ウレタン)の汚れを点検します。
3.汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。(43頁参照)

取扱いのポイント

- **エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エア クリーナ カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

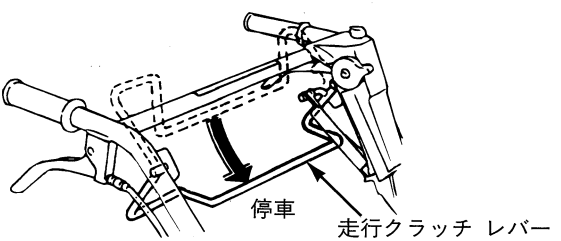


⚠警告

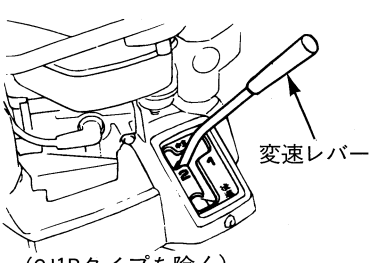
- **屋内や換気の悪い所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。**
- **エンジンを始動するときは、必ず周囲の人や物の安全を確認してください。走行クラッチ レバーが〝停車〟の位置で、変速レバーが〝中立〟の位置になっていることを確認してください。本機が不意に動きだし、けがをすることがあります。**

リコイル スタータによる始動

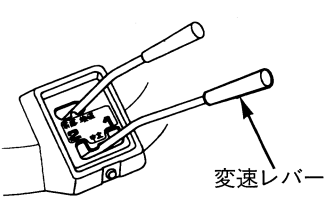
1.走行クラッチ レバーを〝停車〟の位置にします。



2.変速レバーを〝中立〟の位置にします。

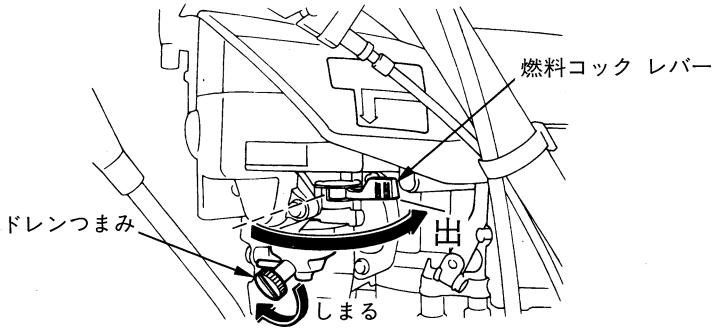


(CJ1Rタイプを除く)

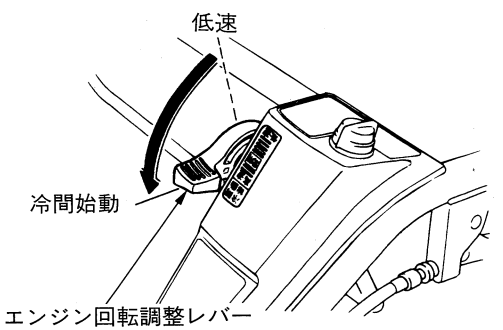


(CJ1Rタイプ)

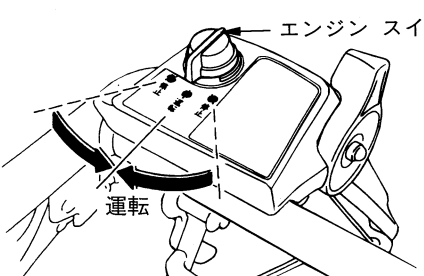
3.ドレンつまみが確実に締まっていることを確認し、燃料コック レバーを〝出〟の位置に合わせます。



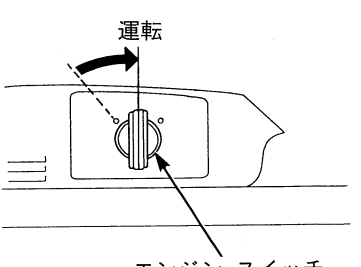
4.エンジン回転調整レバーを〝冷間始動〟の位置に合わせてください。
エンジンが暖まっているときは〝低速〟の位置で始動できます。



5.エンジン スイッチを〝運転〟の位置に合わせてください。

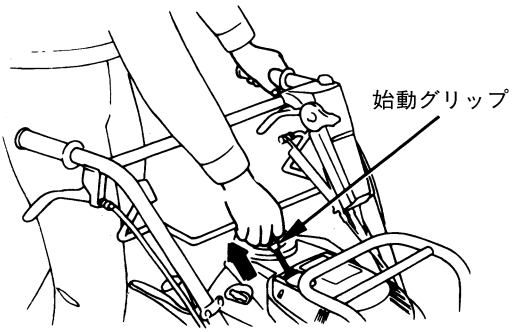


(CJ1、CJ1R、HJ1タイプ)



(CJ1Sタイプ)

6.始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引いてください。



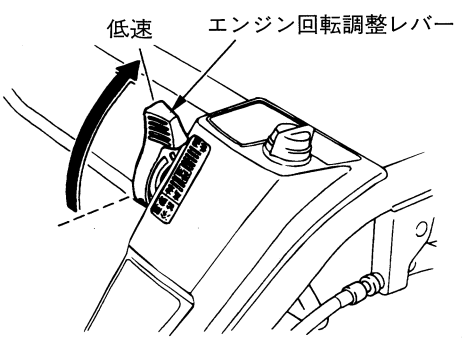
取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を離さないでください。グリップやまわりの部品を破損することがあります。また運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

7.2～3分暖機運転を行います。

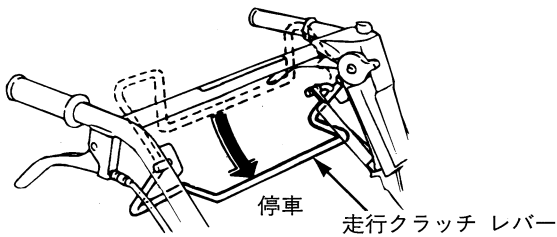
エンジンの回転が安定したら、エンジン回転調整レバーを〝低速〟の位置にしてください。

●暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルをいきわたらせ寿命をのばします。

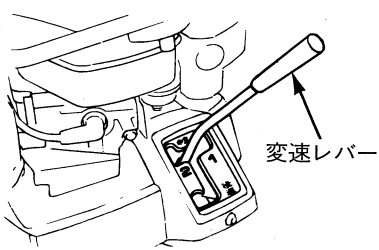


セルフ スタータによる始動(CJ1Sタイプ)

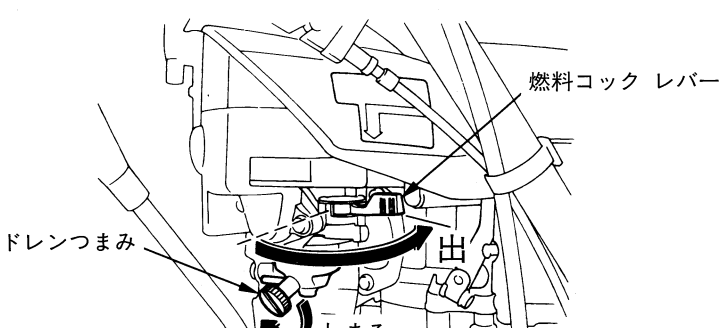
1.走行クラッチ レバーを〝停車〟の位置にします。



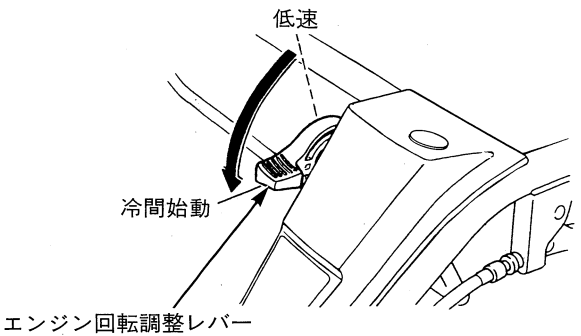
2.変速レバーを〝中立〟の位置にします。



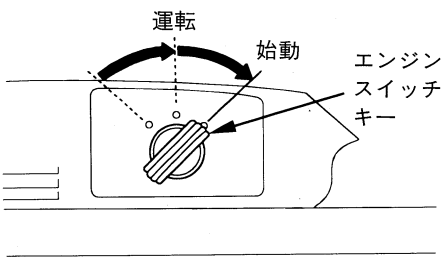
3.ドレンつまみが確実に締まっていることを確認し、燃料コック レバーを〝出〟の位置に合わせます。



4.エンジン回転調整レバーを〝冷間始動〟の位置に合わせてください。
エンジンが暖まっているときは〝低速〟の位置で始動できます。



5.エンジン スイッチを〝始動〟の位置まで回します。エンジンが始動したらエンジン スイッチ キーから手を離してください。〝運転〟の位置に自動的に戻ります。

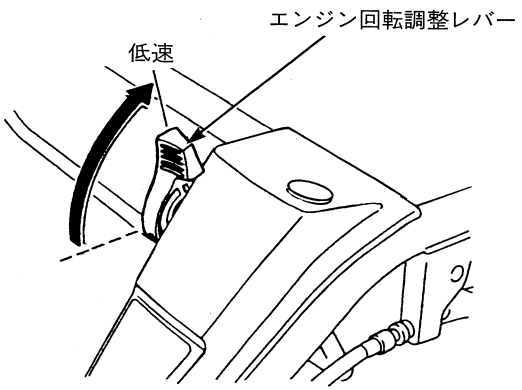


取扱いのポイント

- **エンジン始動時、走行クラッチ レバーが〝停止〟の位置にあることを確認してください。走行クラッチ レバーが〝停車〟の位置でないとエンジンが始動しない機構になっています。**
- **スタータを回して5秒以内でエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動してください。**

6. 2 ～ 3 分暖機運転を行います。
エンジンの回転が安定したら、エンジン回転調整レバーを〝低速〟の位置にしてください。

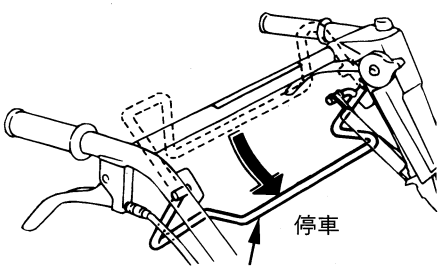
●暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルをいきわたらせ寿命をのばします。

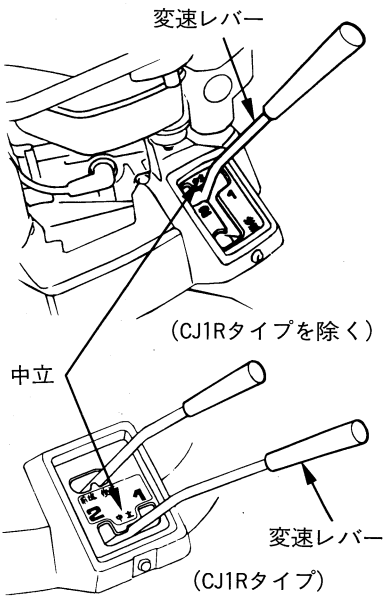


●バッテリ上りなどでセルフ スタータが使用出来ない場合は、リコイル スタータによる始動の手順に従ってください。(21～23頁参照)

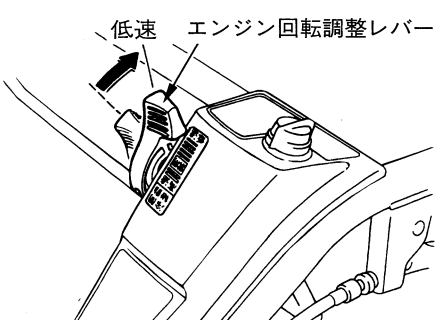
エ　ン　ジ　ン　の　止　め　か　た

1.走行クラッチ レバーを下げ〝停車〟の位置にし、本機を停止させます。変速レバーを〝中立〟にしてください。

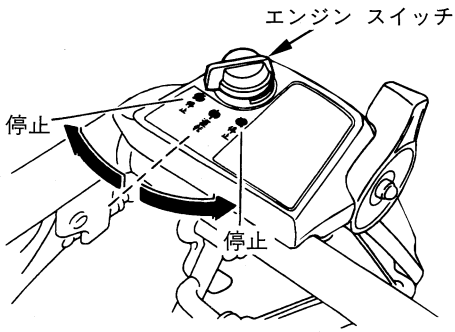




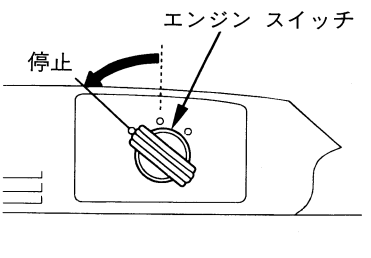
2.エンジン回転調整レバーを〝低速〟の位置に合わせてください。



3.エンジン スイッチを〝停止〟の位置に合わせてください。

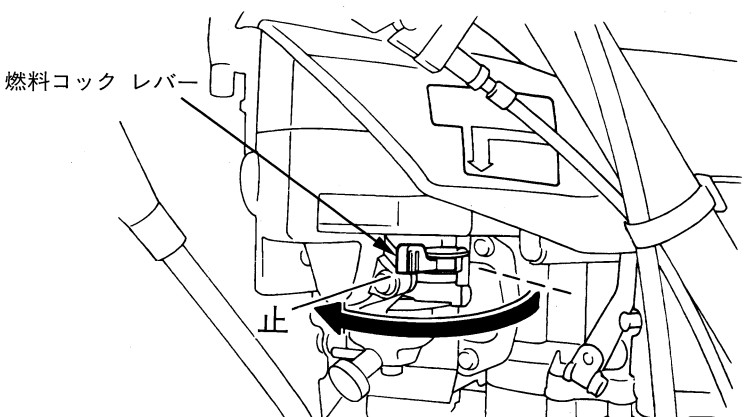


(CJ1、CJ1R、HJ1タイプ)



(CJ1Sタイプ)

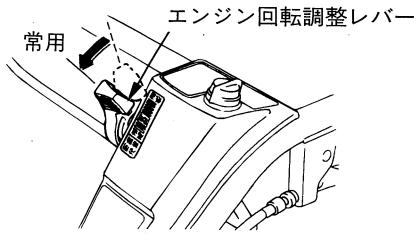
4.燃料コック レバーを〝止〟の位置に合わせてください。



運転

21頁のエンジンのかけかたに従ってエンジンを始動してください。

1.エンジン回転調整レバーを〝常用〟の位置に合わせてください。

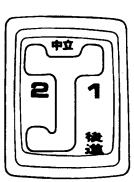


⚠警告

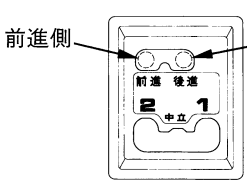
急な坂道を下るときはエンジン回転調整レバーを〝低速〟の位置にし、変速レバーを１速にして走行してください。

2.作業に合わせて変速位置を選んでください。

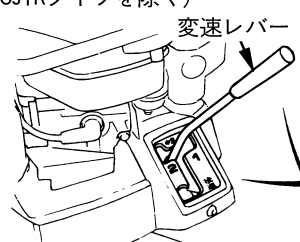
CJ1Rタイプは、必ず走行クラッチ レバーを下げた状態〝停車〟で前進、後進切換えレバーを操作し前進、後進を選びます。次に変速レバーで作業に合わせた変速位置を選びます。



(CJ1Rタイプを除く)



(CJ1Rタイプ)



(CJ1Rタイプを除く)

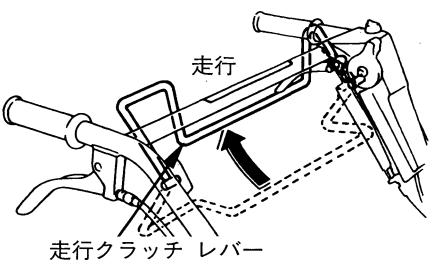


(CJ1Rタイプ)

取扱いのポイント

- **走行中に変速操作は行わないでください。**
  走行クラッチ レバーを下げ〝停車〟の位置にして本機が停止してから変速操作をしてください。走行中の変速は故障の原因になります。
- **前進、後進切換えレバー(CJ1Rタイプ)は走行クラッチ レバーを上げた状態〝走行〟ではエンジン運転中、エンジン停止中にかかわらず切換え操作は行えません。**

3.走行クラッチ レバーを上げてください。走行を始めます。



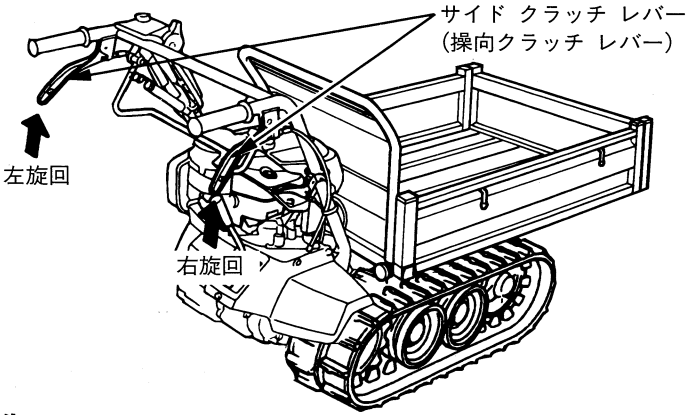
- 走行クラッチ レバーをゆっくりと上げると、エンジンが停止することがありますのですみやかに操作してください。

⚠警告

傾斜地でエンジンが停止したときは、すぐに走行クラッチ レバーを下げ〝停車〟にしてブレーキをかけてください。
本機が動きだす場合があります。

旋回のしかた

旋回しようとする方向のサイド クラッチ レバー(操向クラッチ レバー)を握ると旋回します。
サイド クラッチ レバーを操作する場合は、レバーを確実に握ってください。



⚠警告

旋回するときは荷物が安定していることを確認してください。
急傾斜地では旋回しないでください。
転倒や転落の原因になります。

荷台の使いかた

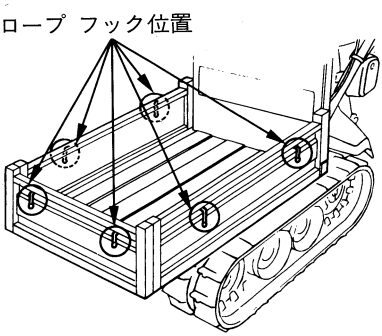
36頁の重量制限を守ってください。

⚠警告

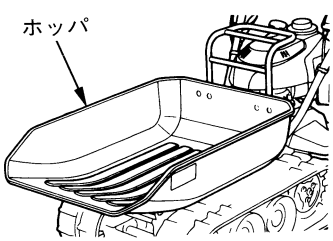
荷物を積載するときは、必ず定められた荷台寸法内で積載重量、正しい積載のしかた、傾斜角度を守ってください。エンジンやフレームに悪影響をあたえるばかりでなく荷くずれなどを起こす原因になります。

荷物を積載するときは、必ず荷くずれしないようにしっかりとロープでロープ フックを使い固定してください。(キャリア タイプ)
ホッパ タイプは砂、砂利、土、たい肥などを積載する時に使用してください。

● ホッパ タイプにはロープ フックが付いていません。



キャリア タイプ(CJ1、CJ1R、CJ1S)



ホッパ タイプ(HJ1)

⚠警告

転倒や転落事故防止のために次の指示に従ってください。

- 本機を動かす前に、荷台がロックされていることを確認してください。ロックが不完全だと降坂時に荷台が持ち上がります。
- 重心が高くならないように、重い荷物が下になるような積み方をしてください。
- 積み荷が荷台からはみ出たり、視界を妨げるような積み方はしないでください。
- 柔らかい地面で、でこぼこのある地面を通過するときは速度を下げてください。
- 15度以上の傾斜地では本機を使用しないでください。
- 荷台を広げて使用する場合は必ず軽量物で平地に限って使用してください。(キャリア タイプ)

取扱いのポイント

ロープ フック以外にはロープをかけないでください。(キャリア タイプ)

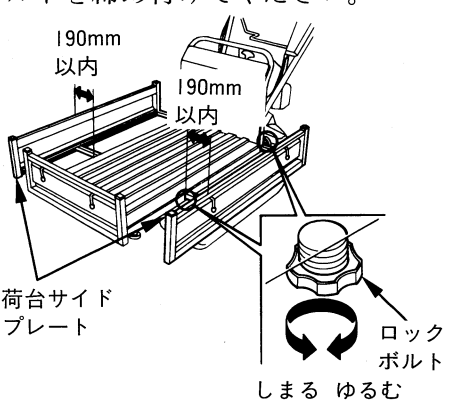
荷台サイド プレートの使いかた(キャリア タイプ)

荷台サイド プレートは左右190mmずつ広げる事ができますが通常の場合は標準の位置で使用してください。

- 荷物にロープをかけるときは荷物を荷台サイド プレートに軽く当たるようにセットしてください。

荷台サイド プレートの取扱い(キャリア タイプ)

左右のロック ボルト4本をゆるめ荷台サイド プレートを横方向に荷物に合わせて、左右均等190mm以内に引き出してください。引き出し後、確実にロック ボルトを締め付けてください。

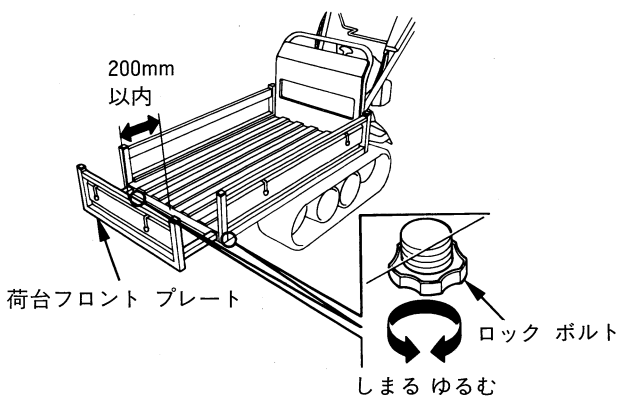


⚠警告

急傾斜地では荷台サイド プレートを広げて使用しないでください。
荷台サイド プレートを広げるのは、軽量物を運搬するときだけにしてください。
荷台サイド プレートを広げるときは、左右同じ長さに出して左右均等に載せてください。限度以上に荷台サイド プレートを広げないでください。
荷台サイド プレートが外れ荷崩れを起こし、けがをするおそれがあります。

荷台フロント プレートの取扱い(キャリア タイプのみ)

ロック ボルト2本をゆるめ荷物の長さに合わせて引き出してください(200mmまで)。引き出し後、確実にロック ボルトを締付けてください。



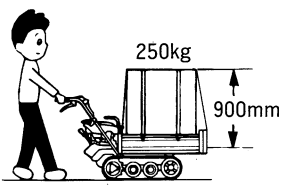
⚠警告

急傾斜地では荷台フロント プレートを引きだして使用しないでください。
荷台フロント プレートを引き出して使用する場合は、軽量物を運搬するときだけにしてください。
また荷台を限度以上に引き出さないでください。
荷台プレートが外れて荷崩れを起こしけがをするおそれがあります。

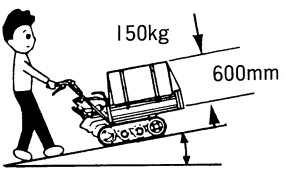
積載のしかた

この運搬機は15度以下の傾斜地で使用してください。

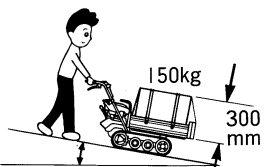
平地



傾斜地15度以下
（登り坂）

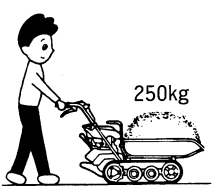


傾斜地15度以下
（下り坂）

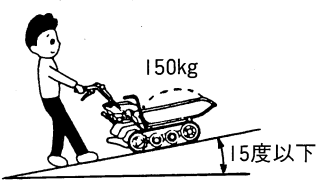


●農用コンテナ最大積載量
　1段積み　5個
ホッパ タイプ(HJ1タイプ)

平地



傾斜地15度以下
（登り坂）

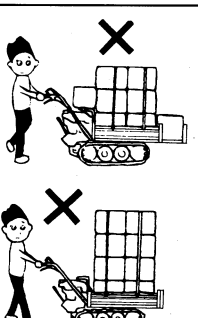


傾斜地15度以下
（下り坂）



⚠注意

荷台からはみ出すような荷物の積載はしないでください。荷物が落下したり、狭い道で荷物が接触したりして運転操作に支障をきたします。
荷物は高く積載しないでください。前方の視界をさまたげるばかりでなく、重心が高くなります。
転倒などしやすくなりけがをするおそれがあります。



傾斜地での使いかた

走行について

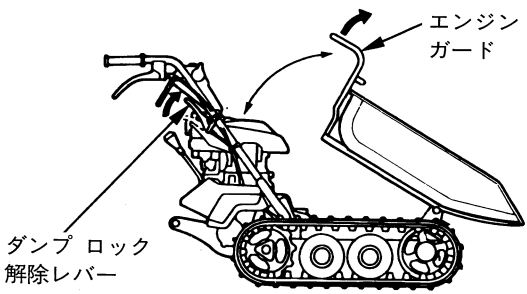
1.必ず１速で走行してください。
2.足場が悪い場合は、車速を下げて足元に十分注意して作業を行ってください。
3.降坂時はエンジン回転調整レバーを"低速"位置にして、エンジン ブレーキを使用してください。
4.傾斜地での発進、停止は転倒に十分注意してください。
5.急傾斜地での旋回および変速は行なわないでください。

積載について

1.傾斜地では荷物の安定性が悪くなりますので、ロープなどでしっかり固定してください。
2.路面の状態により本機の安定性が悪くなりますので、荷物の量は控え目にしてください。
3.傾斜地では前方の視界が悪くなりますので、荷物の高さは控え目にしてください。

ダンプ ロック解除レバーの使いかた

解除するとき……レバーを握りエンジン ガードを持ち上げます。
ロックするとき……エンジン ガードのみ持ってロックするまで下げます。



⚠警告

**本機を動かす前に、荷台がロックされていることを確認してください。ロックが不完全だと降坂時に荷台が持ち上がります。
荷物を落としたり、ケガをするおそれがあります。**

定 期 手 入 れ を 行 い ま し ょ う

定期点検整備項目

お買いあげいただきました本機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目＼点検時間		作業前点検	初回 20時間 運転時	50時間 運転毎	100時間 運転毎又は 6ヶ月毎	300時間 運転毎又は 1年に1回
エンジン オイル	点検	○				
	交換		○		○	
エア クリーナ	点検	○				
	清掃			○(注1)		
本機まわりの点検		○				
レバーの作動	点検	○				
各部の締付け	点検	○				
配線、ケーブル類の点検		○				
エンジンの作動	点検	○				
クローラ	点検	○				
	調整		○			○
走行クラッチ ケーブル	調整		○		○	
サイド クラッチ ケーブル	調整		○		○	
ブレーキ ケーブル	調整		○		○	
スパーク プラグ	清掃 調整				○	
ダンプ ロック ケーブル	調整				○	
エンジン回転調整ケーブル	調整					○〈注2〉
ブレーキ シュー	点検				○	
	交換					○〈注2〉
クラッチ シュー	交換					○〈注2〉
クラッチ オイル	点検					○
変速機オイル	点検					○
各部グリス塗布						○
タペットすき間	点検 調整					○〈注2〉
燃料タンク	清掃					○〈注2〉
燃料チューブ	点検	2年毎〈注2〉				

(注1)ほこりの多いところで作業した場合は、10時間毎または1日1回清掃してください。

(注2)これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店にお申しつけください。

⚠警告

点検・整備は平坦な場所でエンジンを停止させ、エンジンが始動しないようにエンジン スイッチを〝停止〟位置にして点火プラグ キャップをプラグから取外してから行ってください。
誤ってエンジンが始動すると本機が動き出す場合があります。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

交換時期　初回：20時間運転時
以後：100時間運転毎、または6ヶ月毎

●推奨オイル：4サイクル ガソリン エンジン オイル
ホンダ純正：①ウルトラ ネオ汎用機用(SAE30)
②ウルトラ-U(2輪車用)(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当の
(SAE10W-30)エンジン オイル

規定量　0.4ℓ

取扱いのポイント

●低温時(気温10℃以下)ではホンダ純正ウルトラU(2輪車用)SAE10W-30のオイルをご使用ください。
●寒冷地(気温−15℃以下)では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE5W-30オイルをご使用ください。

交換のしかた

エンジン オイル給油キャップを外し、オイル排油ボルトをゆるめてください。

オイル受けをセットしてからオイル ファンネルを図のようにセットしてください。

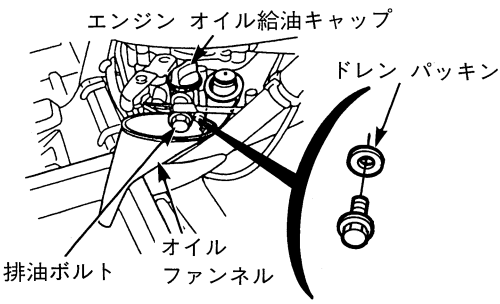
排油ボルトを外しオイルを抜いてください。

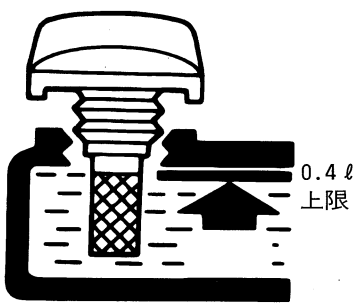
排油ボルトのドレン パッキンを新しい部品と交換してください。再使用するとオイル漏れの原因になります。

オイルがぬけたら排油ボルトを確実に締付けてください。

新しいエンジン オイルを上限まで注入してください。

注入後キャップを確実に締付けてください。





⚠注意

エンジン停止直後はオイルの油温、エンジン、マフラなどが非常に熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

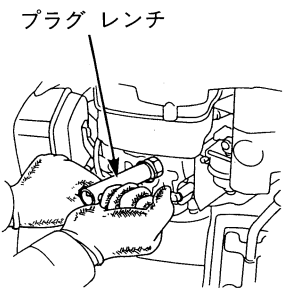
- **オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。**
- **必ず本機を水平にし、オイルを給油してください。**
- **交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。**
  不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

点火プラグの清掃・調整

⚠注意

エンジン停止直後は点火プラグ、エンジン、マフラなどが熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。
やけどをするおそれがあります。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。



清掃時期

100時間運転毎、または6ヶ月毎

清掃のしかた

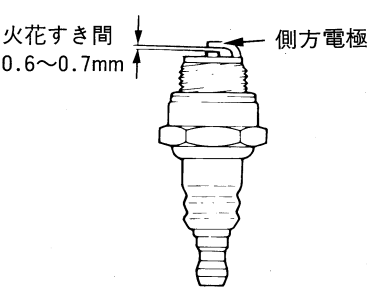
1.点火プラグ キャップを取外します。
2.プラグ レンチで点火プラグを取外します。
3.点火プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

- プラグ クリーナが無いときはワイヤブラシで汚れを落としてください。

調整

4.側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.6～0.7mm



標準プラグ

BM-4A(NGK)
W14M-U(NIPPONDENSO)

取扱いのポイント

- **故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。**
- **プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。**
- **点検調整後は点火プラグ キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。**

エア クリーナの清掃・交換

エア クリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなります。定期的に点検しましょう。

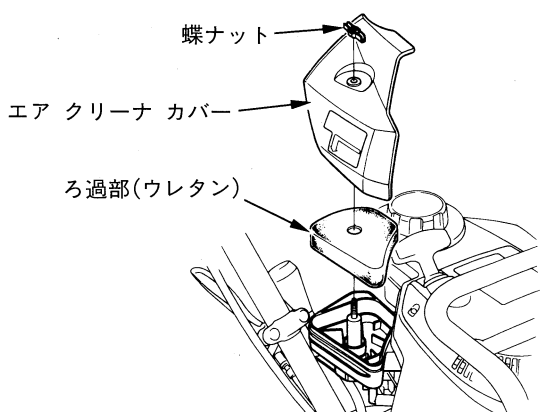
⚠警告

エア クリーナの清掃は、火気のある場所で行わないでください。洗い油は燃えやすく、火災を引き起こすおそれがあります。

清掃時期　50時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回10時間毎。

清掃のしかた

1. 蝶ナットを外し、エア クリーナ カバーを外します。
2. ウレタンのろ過部は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後、かたく絞ってください。
3. 清掃後、各部品を組付け、蝶ナットを確実に締付けてください。エア クリーナ カバーの接続部にすき間、ズレがないことを確認してください。



取扱いのポイント

- **エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エア クリーナ カバーやろ過部の組付けを忘れたり、取付け方が悪いとホコリなどが入り、エンジンに悪影響をあたえます。**

クローラの点検・調整

⚠警告

クローラの点検・調整は平坦な場所でエンジンを停止させ、エンジンが始動しないようにエンジン スイッチを〝停止〟位置にして点火プラグ キャップを点火プラグから取外してから行ってください。誤ってエンジンが始動すると本機が動き出しクローラに巻き込まれけがをするおそれがあります。

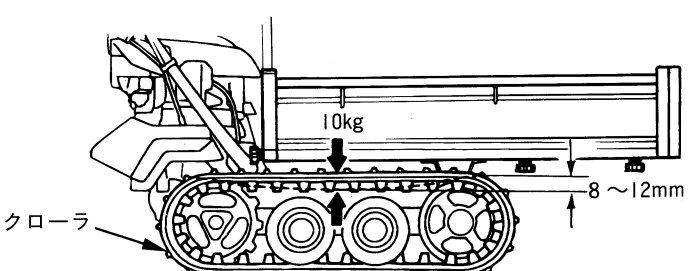
クローラに損傷はないか、ゆるんでいないか点検してください。
クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

点検時期

初回：20時間運転時
以後：300時間運転毎、または１年に１回

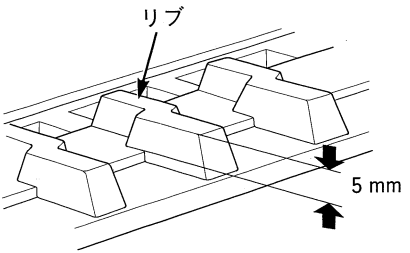
点検のしかた

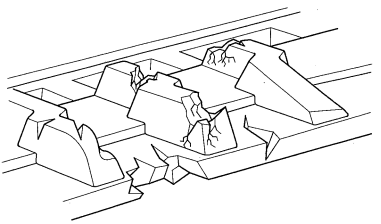
1. クローラの中央部を強く(約10kg)押したときたるみが下記寸法になっているか点検してください。
   たるみ量： 8～12mm



2. クローラのリブの高さを点検してください。
   リブの高さ： 5 mm

3. クローラに著しい亀裂、損傷、摩耗がないか点検してください。

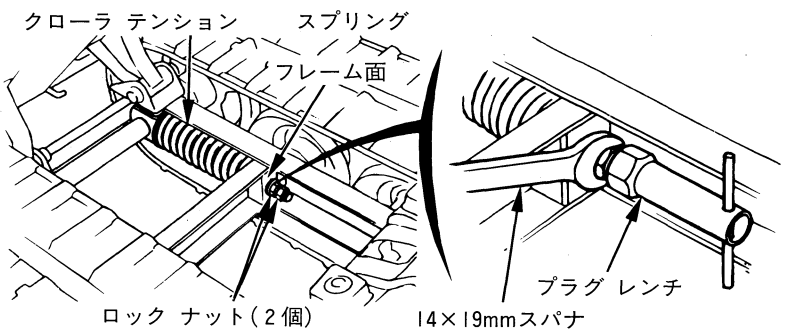




4. クローラに著しい亀裂、損傷、摩耗があるときは、お買いあげ販売店にお申しつけください。

調整のしかた

1.荷台を持ち上げてください。
2.持ち上げた荷台が落ちないように木片を必ず入れてください。
3.ロック ナット２個をフレーム面とすき間ができるまでゆるめてください。
4.フレーム側のロック ナットをフレーム面に軽くあたるまで、手で締込んでください。
5.もう１個のロック ナットで確実に締付けてください。締付けは同梱のプラグ レンチと、14×19mmスパナを使用してください。



⚠警告

持ち上げた荷台が落ちてきますので、荷台が落ちないように必ず木片などで確実に固定するか、または本機から荷台を外して行なってください。
荷台に体がはさまれ、けがをするおそれがあります。

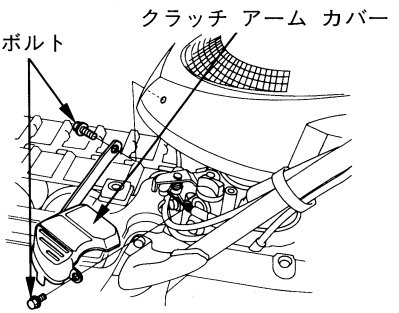
走行クラッチ ケーブルの調整

走行クラッチ ケーブルの調整が完全でないと、クラッチがすべり走行できません。

調整時期

初回：20時間運転時、以後：100時間運転毎、または6ヶ月毎

調整のしかた



1. クラッチ アーム カバーの2本のボルトを外し、走行クラッチ レバーを下げた状態(〝**停車**〞)で、クラッチ アームとケーブル ホルダとのすき間を測定してください。次に走行クラッチ レバーを上げた状態(〝**走行**〞)で再度クラッチ アームとケーブル ホルダとのすき間を測定してください。

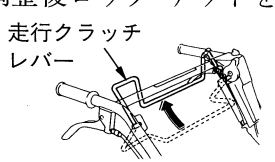
   レバーを上げたときと下げたときのクラッチ アームとケーブル ホルダとの移動量が下記寸法になっているか確認してください。

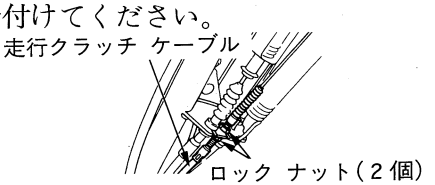
   移動量：1～2 mm

2. 調整はロック ナットをゆるめて、走行クラッチ レバーを上げ下げを繰り返しながら、走行クラッチ レバーを上げたときにクラッチ アームからのケーブル ホルダの移動量が下記寸法になるようにしてください。

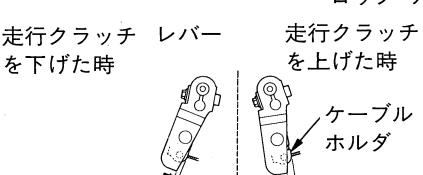
   移動量：1～2 mm

3. 調整後ロック ナットを確実に締付けてください。









ブレーキ ケーブルの調整

ブレーキ ケーブルの調整が完全でないと、ブレーキの効きが悪くなります。

調整時期

初回：20時間運転時、以後100時間運転毎、または6ヶ月毎

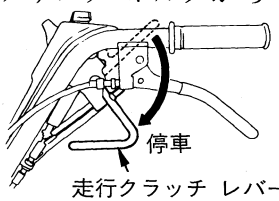
調整のしかた

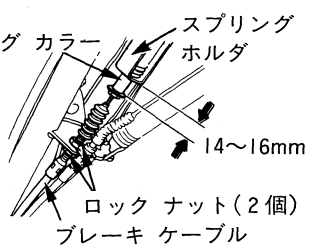
1.走行クラッチ レバーを下げた状態(〝停車〟……ブレーキが効いている状態)でブレーキ スプリング カラーがスプリング ホルダから下記寸法になっているか確認してください。

規定寸法：14～16mm

2.調整は、レバーを下げたままロック ナットをゆるめ規定寸法になるようにしてください。

3.調整後ロック ナットを確実に締付けてください。





CJ1Rタイプは下記の調整も行なってください。

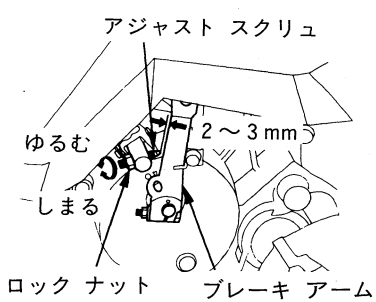
ブレーキ ケーブル調整後、ブレーキ アームとアジャスト スクリュのすき間を点検し、すき間がない場合必ず下記の調整を行ってください。

1.走行クラッチ レバーを下げ(〝**停車**〟)ブレーキが効いている状態にします。

2.ロック ナットをゆるめアジャスト スクリュを回してブレーキ アームとアジャスト スクリュのすき間を2～3mmに調整します。

3.調整後ロック ナットを確実に締付けてください。

4.走行クラッチ レバーを上げた状態(〝**走行**〟)で前進、後進切換えレバーが動かないことを確認してください。



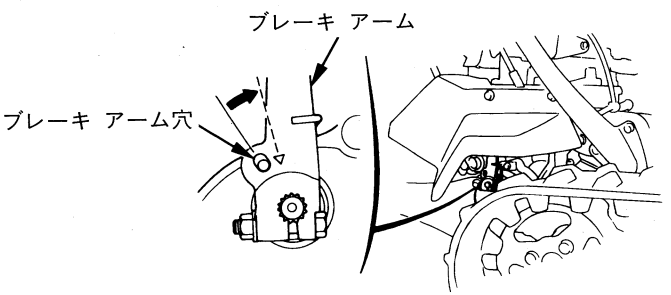
ブレーキ シューの点検

ブレーキ ケーブル調整後、必ずブレーキ シューの点検を行ってください。

点検時期

100時間運転毎、または6ヶ月毎

走行クラッチ レバーを下げた状態(〝**停車**〞)でブレーキ アームの穴位置が図の○から▽マークの間にあれば正常です。もし▽マークに近い時にはお買いあげ販売店へお申しつけください。



サイド クラッチ ケーブルの調整

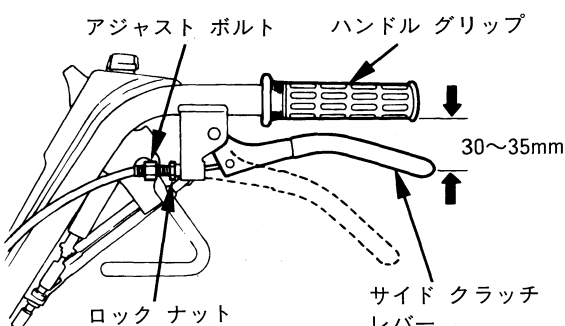
サイド クラッチ ケーブルの調整が完全でないとサイド クラッチの切れが悪くなります。

調整時期

初回：20時間運転時　以後：100時間運転毎、または 6 ヶ月毎

調整のしかた

1. 本機を前後にゆすりながら、レバーが深く握れるところを探してください。
2. サイド クラッチ レバーを握った状態でレバーの先端とハンドル グリップとのすき間が30～35mmになっているか確認してください。
3. 調整は、レバーを握った状態でロック ナットをゆるめアジャスト ボルトで規定の寸法にしてください。
4. 調整後、ロック ナットを確実に締付けてください。



ダンプ ロック ケーブルの調整

調整時期

100時間運転毎、または6ヶ月毎

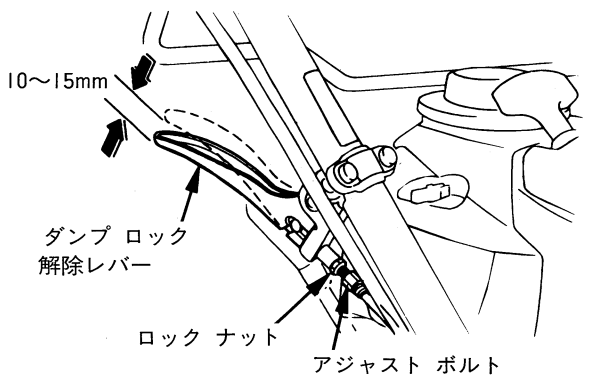
調整のしかた

1.荷台をロックした状態でダンプ ロック解除レバーの先端の遊びが下記寸法になっているか確認してください。

遊び：10〜15mm

2.調整は、ロック ナットをゆるめアジャスト ボルトで規定の寸法になるようにしてください。

3.調整後ロック ナットを確実に締付けてください。

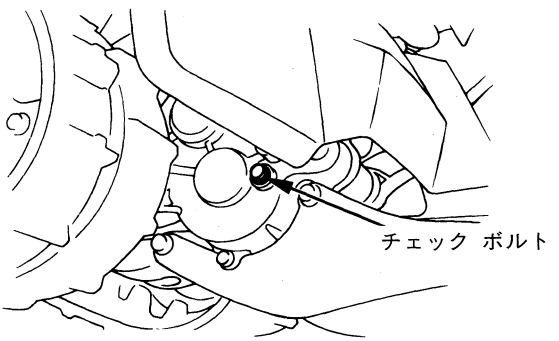


変速機オイルの点検

点検時期

300時間運転毎、または１年毎

チェック ボルトを外して、オイルが入っている事を確認してください。もし少ない場合はお買いあげ販売店へお申しつけください。

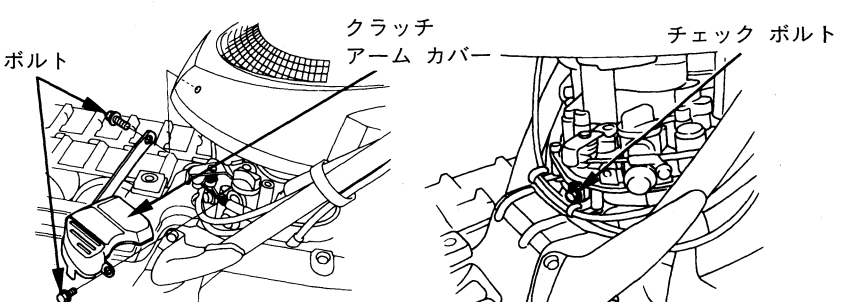


クラッチ オイルの点検

点検時期

300時間運転毎、または１年毎

クラッチ アーム カバーを外し、チェック ボルトを外して、オイルが入っている事を確認してください。もし少ない場合はお買いあげ販売店へお申しつけください。



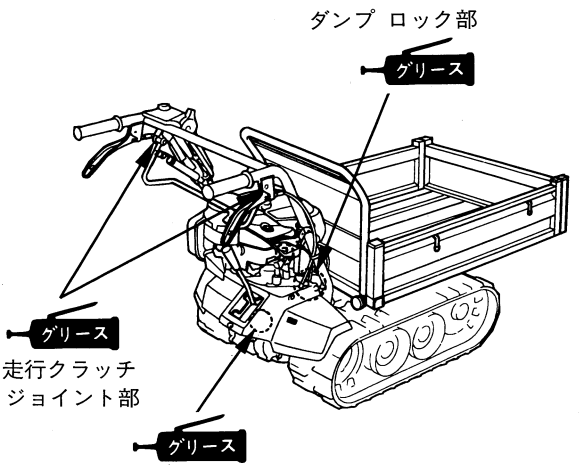
各部の給油について

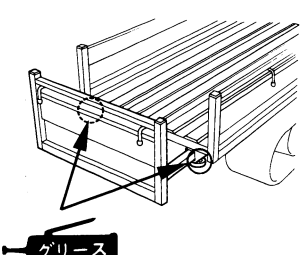
本機を常に快適に使用するため、下記個所に給油してください。

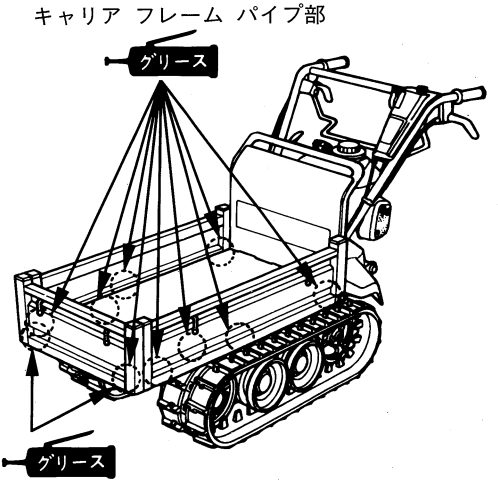
給油時期

300時間運転毎、または１年毎

●ホッパ タイプも同じです。





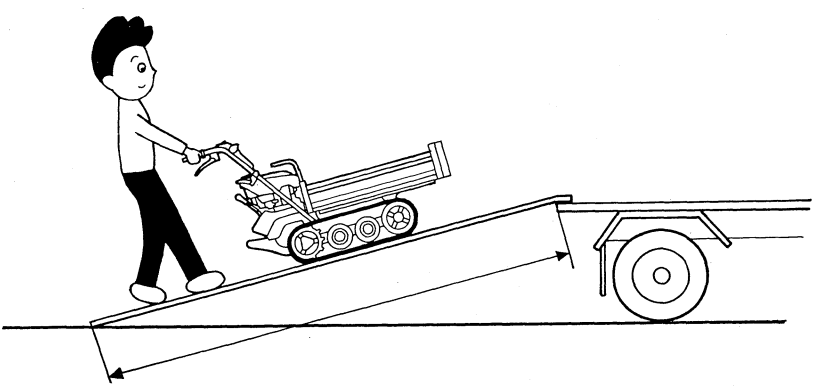


トラック(車)への積み降ろしのしかた

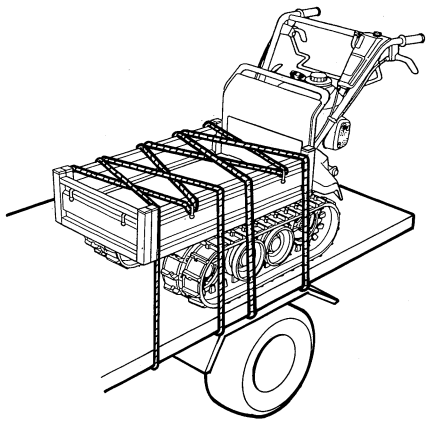
⚠警告

トラックへの積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用し、低速で行なってください。転倒や落下によりけがをするおそれがあります。

1. 本機の寸法および重量の積載を満たすトラックを使用してください。
2. トラックへの積み降ろしは平坦な場所でアユミ板を使い転倒や落下に注意して行ってください。
3. アユミ板は耐荷重が0.5t以上で、本機の傾斜角度が15度以下になる長さで、幅30cm以上のもので、滑り止めや外れ防止フックのついた丈夫なアユミ板を使用してください。(目安として荷台の高さの4倍以上)



4. アユミ板はトラックに対してまっすぐに、しっかりとかけてください。
5. トラックにアユミ板を平行に並べ、本機のクローラと一直線であることを確認してください。
6. 本機に荷物のない状態で、必ず低速で行なってください。
   トラックに積載したら、走行クラッチ レバーを〝停止〟位置にし、エンジンを止め、燃料コック レバーを〝止〟めの位置に合わせ、本機をロープなどで2カ所以上固定してください。



7. トラックから本機を降ろすときは、低速で行なってください。後ろ向きで降りるため、後方の安全を十分確認してください。

長期間使用しないときの手入れ

★長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠警告

平坦な場所でエンジンを停止させ、エンジンが始動しないようにエンジン スイッチを〝停止〟位置にして点火プラグ キャップをプラグから取外してから行ってください。
誤ってエンジンが始動すると本機が動き出します。

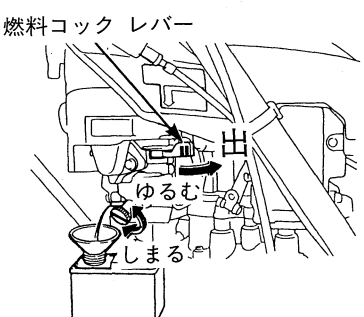
⚠注意

エンジン停止直後はエンジン、マフラーなどが非常に熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。
やけどをするおそれがあります。

1.燃料タンク、キャブレータ内の燃料を抜いてください。
～1.燃料コックレバーを〝出〟の位置にして、ドレンつまみをゆるめて、燃料を燃料用の安全な容器に受けてください。
～2.完全に燃料が抜けたら、ドレンつまみを確実に締めて燃料コックレバーを〝止〟の位置にしてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**



⚠警告

ドレンつまみの締め方がゆるいと次回に使用するときに、燃料漏れの原因になります。

抜き取った燃料は、燃料をお買い求めになったガソリン スタンドに処理を依頼してください。

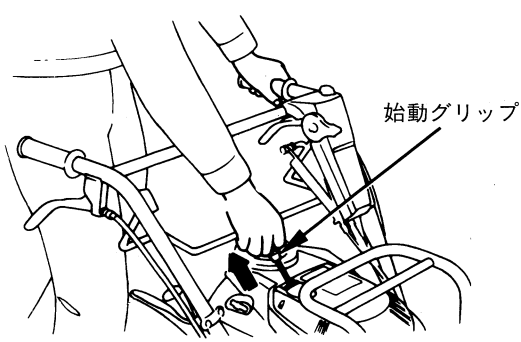
2.エア クリーナを清掃してください。(43頁参照)

3.本機の清掃を行い、各部の締付けを点検して下さい。また各部の給油を実施して下さい。(53頁参照)

取扱いのポイント

本機を洗うときはエア クリーナのカバー締付け部付近、電装部品、およびキャブレータに水がかからないように注意してください。これらの部分に強く水がかかると内部に水が侵入し故障の原因になります。

4.始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。



⚠警告

本機を室内に格納するときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してからボディ カバーなどをかけて格納してください。

エンジンやマフラが熱いときに燃えやすいものが触れると、火災の原因になります。

バッテリの手入れ(CJ1Sタイプのみ)

保管時は、バッテリの㊀端子を外しておいてください。
長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は放電しますので6ヵ月に一度補充電を行ってください。
充電器は別売指定充電器(お買いあげ販売店へお申しつけください)または市販の充電器をご使用ください。

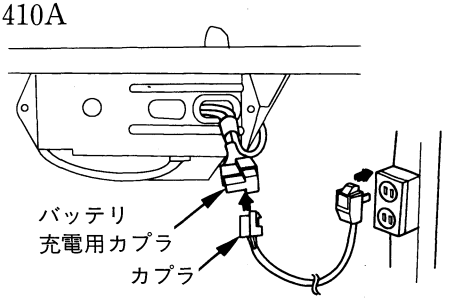
⚠警告

- **バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可然性のガスが発生しているので爆発の危険があります。**
- **バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は㊉から接続し、外すときは㊀から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。**
- **バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。**

補充電のしかた

- 指定充電器
  部品名：バッテリ充電器NC—1410A
  部番：31670—737—711

1. カプラを取外してください。
2. 充電器のリード線カプラをメス側カプラに接続してください。
3. 充電時間：24時間
4. 補充電後は必ずカプラを元の位置に結合してください。



取扱いのポイント

- **充電中にエンジンをかけないでください。本機に悪影響を与えることがあります。**
- **バッテリの充電は換気の良い場所で行ってください。**

ヒューズについて(CJ1Sタイプのみ)

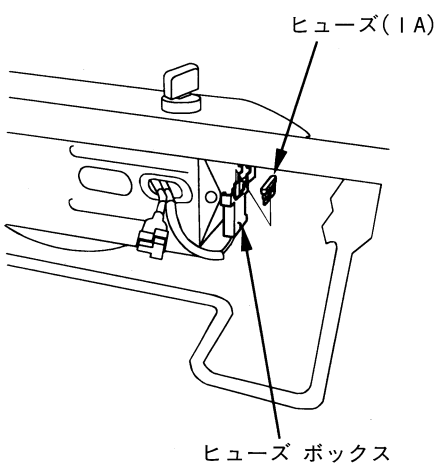
ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。
規定容量……1A

取扱いのポイント

指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。火災を起こすことがあります。

交換のしかた

ヒューズ ボックスよりヒューズを外し、新品のヒューズと交換してください。
☆指定ヒューズは、お買いあげ販売店にご注文ください。



故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1.始動方法は取扱説明書通りですか？
2.ガソリンはありますか？
3.エンジン　オイルは規定量ありますか？
4.プラグ　キャップは確実に取り付けられていますか？
5.点火プラグは汚れていませんか、また火花は出ていますか？

・点火プラグの火花確認手順
～1.点火プラグからプラグ　キャップを取外します。
～2.点火プラグをエンジンから取外し、プラグ　キャップに取付けます。
～3.プラグ穴から離れた場所で、点火プラグのネジ部をエンジン本体に確実にアースさせます。(感電を避けるためプラグ　キャップ以外には触れないでください。)
～4.エンジン　スイッチを運転の位置にして始動グリップを引き、そのとき点火プラグの電極に火花が出るか確認してください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **燃料がこぼれた場合は、点火プラグの火花確認やエンジンを始動する前にふき取り良く乾かしてから行ってください。**
- **ガソリンに引火するおそれがあるのでプラグ穴の近くで火花確認をしないでください。またプラグ穴に手や顔を近づけないでください。**

・火花が出ないときは、新しい点火プラグと交換するか、お買いあげ販売店にお申しつけください。

主　要　諸　元

名　称(タイプ)	HP250(CJ1、CJ1R、CJ1S、HJ1)
型　式	NA1

エンジン

名　称	GV100K1
形　式	強制空冷、4サイクル ガソリン、OHV
排　気　量	98cm³
最大出力／回転速度	2.6ps/4,200rpm
内径×行程	52×46mm
点火時期	上死点前20°
点火方式	トランジスタ マグネト点火
エンジン オイル容量	0.4ℓ
燃料タンク容量	0.9ℓ
点火プラグ	BM-4A(NGK)、W14M-U(NIPPONDENSO)

フレーム

タイプ		CJ1	CJ1R	CJ1S	HJ1
全長(mm)		1,720			1,547
全幅(mm)		615			600
全高(mm)		875			
乾燥重量(kg)		124	125	127	107
全装備重量(kg)		127	128	130	110
変速段数	(CJ1Rを除く)	前進2段、後進1段			
	(CJ1R)	前進2段、後進2段			
車速	(CJ1Rを除く)	1速-1.4km/h 2速-3.5km/h 後進1速-1.3km/h			
	(CJ1R)	1速-1.4km/h 2速-3.5km/h 後進1速-1.4km/h 後進2速-3.5km/h			
最大積載量	平地	250kg			
	傾斜地	150kg			
クラッチ オイル容量		0.6ℓ			
変速機オイル容量		2.0ℓ			
クローラ(幅)×(長さ)		180×1,800mm			

※CJ1：ボックスタイプ　　CJ1R：ボックス後進2段タイプ
CJ1S：ボックス セル スタータ／リコイル スタータ併用タイプ
HJ1：ホッパ タイプ
注意：諸元は予告なく変更することがあります。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2—1—1

30740711
00X30-740-7110

Ⓢ K1 Ⓝ3009509